

8月19日(月)～21日(水)

芸術見本市2002東京

(東京国際フォーラム)



芸術見本市2002東京は、東京国際フォーラムを主な会場として8月19日(月)から21日(水)の日程で開催されました。出展登録団体数は103団体、3日間ののべ来場者数は約2万名、うち海外からのビジターは27の国と地域から350名にも上り、過去最高の来場者数となりました。

会場ではブース展示、ショーケースや映像プレゼンテーション等、各出展団体による工夫に満ちた多様なプレゼンテーションが行われたほか、様々なテーマに添ったセミナーやシンポジウムが多数行われ、ビジターのみならず

多くの出展者や関係者をも魅了する内容となりました。

今年はアジア舞台芸術祭2002東京との共同開催にあたり、国際企画「Focus on Asia」を開催する等、日本のみならずアジアの舞台芸術を世界に向けて発信する取組みが行われました。最終日にはアジアの舞台芸術の今後の方向性について議論する場として、また芸術見本市2002東京の締めくくりとして、総合ディスカッションが行われ、世界各国からのフェスティバル関係者と日本の舞台芸術関係者とが活発な意見交換を行いました。これを機会に東京芸術見本市が、日本を含むアジア全体の舞台芸術の情報発信の中心になることを期待したいと思います。

撮影:宮内勝



国際交流基金フォーラム

The Japan Foundation Forum

国際交流基金フォーラムは、当基金主催事業のみならず、他の文化交流団体が実施する国際交流を目的とするすぐれた各種催し物のためにも有料にて貸し出しを行います。公演、展示、映画、講演、シンポジウム・セミナー等幅広いジャンルの催しに対応可能な設備を備えており、400人程度まで収容可能です。

〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-22 赤坂ツインタワー1F 最寄り駅 営団地下鉄銀座線/南北線「溜池山王駅」12番出口すぐ施設で利用のお問い合わせ

(財)国際文化交流推進協会(エース・ジャパン)国際交流基金フォーラム係

TEL.03-5562-0699 FAX.03-5562-4423 URL:<http://www.acejapan.or.jp/frm/index-j.html>

●10月2日(水)まで

スリランカ映画祭 2002

お問い合わせ:
スリランカ映画祭事務局(株) PFF事務局内
TEL.03-3265-1425

●10月12日(土)

アンコール遺跡保存 国際シンポジウム

お問い合わせ:
日本国政府アンコール遺跡救済チーム
TEL.03-5286-3144

●10月17日(木)～11月9日(土)

第7回アジア漫画展 ～アジアの就職事情

お問い合わせ: アジアセンター国内事業課
TEL.03-5562-3892
*詳細は裏表紙をご参照ください。



8月23日(金)～25日(日)

南西アジア音楽の宴～大地・うた・祈り～

(国際交流基金フォーラム)

今年は、南アジア諸国と日本との関係において節目の年です。バングラデシュと日本は外交関係樹立30周年、インドとは同50周年となります。こうした節目の年を記念すると共に、新しい国造りが始まったばかりのアフガニスタンの復興を支援する意味も加え、南西アジアの音楽を特集し、アフガニスタンの伝統音楽、バングラデシュの民衆歌謡、インドの現代音楽のグループを招へいし、国際交流基金フォーラムでコンサートを実施しました。

内戦の続いたアフガニスタンを逃れ、パキスタンで難民となりながらも伝統音楽を守り続けるアミール・ジャン。ベンガルの大地に生まれた生命、人間の愛、その豊かさを伝えるフォリダ・バルビーン。多様なインドの民謡や民話と、現代の音楽との融合を試みるインディアン・オーシャン。それぞれ個性あふれる質の高い演奏と歌で観衆を魅了しました。

今回の企画はアフガニスタンの復興支援に従事するシャマーレアフガニスタンや、バングラデシュとの関わりが深いシャプラニールなどNGOの協力によって実現しました。アミール・ジャン、フォリダ・バルビーンのグループは各地NGOの主催で、東京公演の後、2週間にわたる地方公演も実施しました。

また関連企画として、出演アーティストに加え、パキスタンや日本の民族音楽研究者が参加してセミナーを実施し、南西アジアの伝統音楽を概観する機会を設けました。日本で紹介する機会の少ないこの地域の文化紹介事業として、貴重な機会を提供することができたと考えています。



8月6日(火)～26日(月)

木下伸市中南米津軽三味線公演

(キューバ、パナマ、アルゼンチン、ウルグアイ、メキシコ)

津軽三味線全国大会に2度優勝し、全国大会歴代A級チャンピオン山田千里杯争奪戦では初代グランド・チャンピオンに輝く等、名実共にNO.1津軽三味線奏者である木下伸市氏による初の中南米公演が、「日本・キューバ交流開始100周年」や「パナマ日本文化月間」等の一環として8月6日(火)から26日(月)にかけてキューバ、パナマ、アルゼンチン、ウルグアイ、メキシコの5カ国で開催されました。

コンサートは約2時間にわたる二部構成となっており、一部では津軽三味線の伝統曲を木下氏がソロで演奏し、二部では「ツガル・フュージョン」として津軽三味線に和楽器の尺八・笛と洋楽器のパーカッションを組み入れ伝統音楽と現代的音楽を融合した木下氏オリジナルの創作曲が演奏されました。高度な演奏技術と素晴らしいリズムが披露され、またそれぞれの楽器の特性も引き出された非常にメリハリのある公演に、会場の観客は大変魅了され、拍手やアンコールを求める声は鳴り止まずスタンディング・オベーションも見られる等公演は大盛況の内に終了しました。

キューバを初めとして音楽のさかんな中南米の、レベルが高い聴衆を魅了したこと、一部の有識者にも知られ、一般市民にはまだあまり知られていない津軽三味線という日本の伝統音楽を正しく多くの人々に伝えられたこと、このことは「日本文化紹介派遣事業」としての目的を十二分に達成したと考えます。



国際交流基金特定寄付金制度

国際交流基金の「特定寄付金制度」は、国内の企業や個人が国内外の国際文化交流事業に対して寄付を計画している場合に、特定公益増進法人*である当基金が寄付金を受入れ、その寄付金を原資とした助成金を当基金から事業実施団体に交付することによって、寄付金を税制上の優遇措置の対象とできるようにする制度です。

この制度を通して、当基金では、広く企業や個人が国際文化交流に寄与することを支援しています。設立以来、2001年度末までに寄せられた特定寄付金は、986件、592億1,143円です。

*特定公益増進法人とは

公共法人、公益法人等のうち、教育又は科学の振興、文化の向上、社会福祉への貢献その他の公益の増進に著しく寄与するものと認められた法人のことです。特定公益増進法人への寄付は、一定の要件下で税制上の優遇措置が受けられます。

「寄付金制度」について

経理部資金課 03-5562-3519

当基金では、国際文化交流事業の一層の発展・普及のため、皆様よりのご支援をお願いしております。

中でも、年会費として一定額以上のご寄付をお願いする会員になっていただきますと、定期刊行物の送付や図書館のご利用、催しへのご案内等、様々な特典がございます。会員制度には「賛助会」(個人一口2万円、団体一口10万円)、「友の会」(個人のみ、一般4千円、学生2千円)の2種類がございます。

なお、当基金は特定公益増進法人に指定されており、ご寄付は税制上の優遇措置の対象となります。

